

林業福島

No. 566

題字 福島県知事 佐藤雄平



Fight!
Fukushima! がんばろう
福島!

10 2011

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■つかの間の語らい



東日本大震災半年を迎えて

田人林業研究会長
蛭田 一

このたびの東日本大震災により被災された方々へ、お見舞い申し上げます。あれから半年経ちますが、福島第一原発事故が原因による影響は多大なものがあ
り、風評被害、放射性物質の拡散は広く全国に及び、「どこまでの範囲を、どのよ
うに対処すればよいのか」それらの方法等、収束への見通しも立たず、健康被害の
不安は消えません。

収穫の秋を迎え、農林産物への放射能汚染は不安の種であり、モニタリング検査
結果を踏まえて、確実に危険な数値も出始めています。

今回、全国林業グループ連絡協議会では、社団法人 全国林業改良普及協会と連
携し、被災地域の仲間を応援しようと「震災復興」及び「森林整備再開に向けての
林業者支援キャンペーン」を実施、全国のグループへ呼びかけて林業道具の無償提
供を行いました。県内では相馬地方へチェーンソー、刈込機等を送付いただき、迅
速な対応ありがとうございました。

さて、私の地元であります田人林業研究会では、林野庁が進める、吸収源対策森
林推進活動緊急支援事業（平成一八年～平成二二年の内二年間）を活用させて
いただき、地域ぐるみで山林所有者へ間伐推進のための活動を行いました。今年度、
「高校生等に対する林業経営、就業体験」等、新たな事業取組みに大きな意気込み
をみせています。全国的にも学生を対象に森林環境学習を勧め、森林林業を理解し
てもらおうという取組みが広がっています。

現在、森林林業再生プランのもとで、集約化施策による搬出間伐が中心となる時
代がスタートしており、素材生産を主とした施策が増えてくると思われま
す。とはいえ、森林林業担い手や緑の雇用制度においての就業者の定着率は、良いとは言
えない状況です。再生産可能な森林資源を次世代に引き継いでいくことが私達の務め
だと思いますが、今の材価を基軸に生活することは厳しいのが現状です。「伐採し
たら植える」といった循環林業の流れは出来ていません。同時に、過疎化が進む山
村地域や農林業に関して、今どのような状況にあるのか理解している人は少ないで
しょう。「人が居ない」ということを前提に、対策を考えるときであると認識すべ
きです。問題ばかりに焦点を合わせず、解決策として、多くの人が意見交換出来る
場を作ることが必要です。現在、木材・木材製品の安定供給や消費者への対応体制
などのしくみが、着実に変わってきていると感じています。

福島県林業グループ連絡協議会参加グループは、現在一八を数えます。林床利用
による山菜やきのこ類の栽培等に取り組むグループ、森林ボランティアに汗を流し
山を基盤に活躍するグループ等、多彩さを極めていきます。グループ員の多くが明る
い未来を信じ、希望を胸に、誇りをもって取り組んでいます。

「森林の線量は？土壌は？」皆不安を抱えているのは事実です。不安を解消する
ためにも、行政の速やかな対応を望みます。豊かな森の木々に生まれ、眩しいほど
に輝く子供達の目を、再び取り戻せるように。

《も く じ》

とびら	
東日本大震災半年を迎えて	
田人林業研究会長 蛭田 一	1
福島県復興ビジョンの概要について	2
東北・北海道ブロック	
平成23年度林業グループコンクール	
開催される	3
東北・北海道ブロック	
平成23年度林業グループコンクール	
(第51回林業グループ交歓会)に参加して	4

林協ニュース	5～6
森林文化シリーズ	
巨樹はパワースポット	7
普及指導員通信	8
木材市況・ふくしま東西南北	9
みどりの少年団コーナー	10
木連だより	11
森林管理署メモ	12
はなしのひろば	13

福島県復興ビジョンの概要について

福島県農林企画課

東日本大震災は、地震、津波により奪われた尊い多くの人命や各種インフラに甚大な被害をもたらしたほか、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う環境の汚染や風評被害が引き続き状況にあります。

県としては、それぞれの地域が直面している現状は異なるものの、復興に向けて希望の旗を掲げ、すべての県民が思いを共有しながら一丸となってこれを進めるため、去る八月十一日に福島県復興ビジョンを策定しましたので、その概要をお知らせします。

一 ビジョンの構成及び対象期間

主要施策を貫く最も基本的な考え方として三つの基本理念を示しました。

甚大な原子力災害への対応として、「緊急的対応」と「原子力災害対応」をそれぞれ柱と位置付けるとともに、中長期的な対策として、「ふくしまの未来を見据えた対応」にまとめ、全体として七つの主要施策を掲げました。また、対象期間は一〇年間としました。(図1)

二 農林水産業に関する主要施策の概要(関係部分を抜粋したもの)で、全容は県HPに掲載)

- (一) 緊急的復旧・生活再建支援・市町村の復興支援
 - 生活基盤・産業インフラの復旧…

農地、農業水利施設等インフラの復旧、農地の除塩

○被災者の緊急的な雇用の確保と被災事業者の事業再開支援・無利子・無担保融資などの緊急支援、就業の場・雇用の確保

○原子力災害への緊急的対応…被災者の原子力損害賠償請求の支援、モニタリング体制の強化及び除染、風評被害対策

(二) 地域のきずなの再生・発展
○避難住民とともに生み出す地域の活性化
○避難住民の事業再開・起業等の支援
○新たなきずなを生かした広域的連携の推進

(三) 新たな時代をリードする産業の再生・発展
○新たなきずなの創出
○本県産業の再生・発展
○地域産業六次化の飛躍的な推進
○新たな社会にふさわしい産業の育成と雇用の創出

○自己研鑽の支援、人材の育成
○新たな経営・生産方式による農林水産業の飛躍的發展

○安全・安心の確保できる生産流通体制の構築、新たな経営・生産方式の導入等による農業の復興、森林の適正管理と木質バイオマスの活用促進等による林業の復興、収益性の高い経営の推進等による水

産業の復興、復興を担う人材の育成
○産業の再生・発展に向けた基盤づくり
○漁港施設の早期復旧と整備推進、農地の早期復旧、利用集積による有効活用

(四) 災害に強く、未来を切り拓く社会づくり
○ふくしま及び東北を支える新たな県土づくり
○農林水産業基盤の防災機能強化
○将来像を共有しながら進める災害に強い県土づくり
○海岸防災林とインフラ等を組み合わせた津波への多重防御
○ソフト面での対策としての防災・減災対策や防災・減災教育の強化
○地域における防災教育・防災活動強化による人材育成

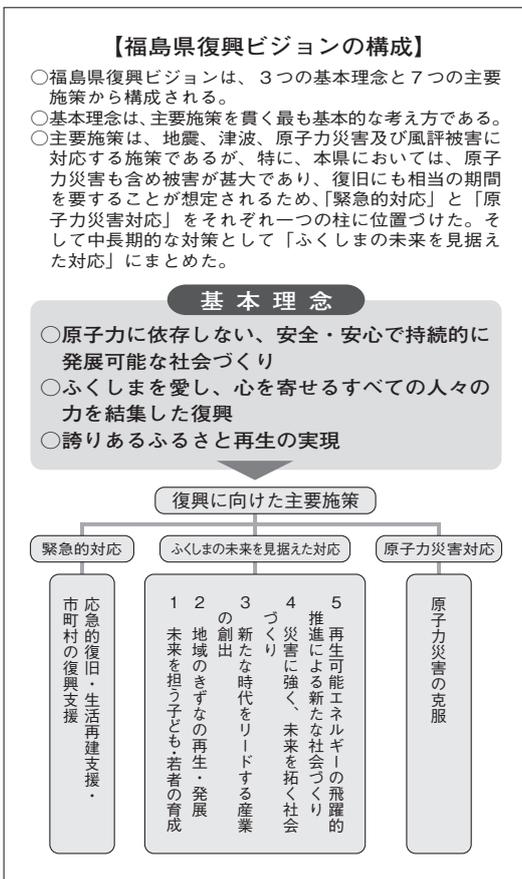
(五) 再生可能エネルギーの飛躍的推進による新たな社会づくり
○再生可能エネルギー産業などの飛

(六) 躍的發展
太陽光、水力、木質バイオマスなど再生可能エネルギーの活用
原子力災害の克服
○全県におけるモニタリングの充実・強化
○モニタリング体制の強化(再掲)
○全県における環境の回復
放射性物質に関する研究拠点の整備、農地・森林等の除染(再掲)
○原子力災害を克服する産業づくり
放射性物質の農産物への吸収を抑制する技術の開発・普及

三 終わりに

県では、復興ビジョンの具体化を図るため、復興ビジョンに基づく具体的な取組みや主要な事業を示す「復興計画」を年内に策定することとしています。十一月下旬に予定しているパブリック・コメントの機会に、皆様からの積極的な提言等をお待ちしています。

復興に向けた主要施策(図1)



東北・北海道ブロック 平成三年度林業グループコンクール開催される

県中農林事務所 森林林業部
主任主査 松崎 明

東北・北海道ブロック平成三年度林業グループコンクール及び第五一回林業グループ交歓会が九月五日～六日、北海道登別市の登別温泉「石水亭」で開催されました。

北海道・北海道林業グループ連絡協議会・全国林業研究グループ連絡協議会の主催により行われ、東北・北海道の林業研究グループ員等約一九〇名が参加しました。当初は東日本大震災の影響で開催を危ぶむ声も多かったということですが、関係者のご尽力により開催にこぎつけたとのことです。

はじめに、主催者の北海道水産林務部森林環境局長安田伸生氏、全国林業研究グループ連絡協議会長田田爪弥栄氏から挨拶があり、地元登別市長小笠原春一氏より来賓挨拶が述べられ、コンクールに入りました。本県からは里の森みらい(須賀川市)の五名の方が参加し、薄井充良氏により「里の森みらいの活動について」と題して、平成一九年のグ

ループ結成からの歩みについて発表がなされました。その内容は、①平成一八年の県の森林環境税導入で県民参画による新たな森づくりが提唱されたことから、林業をリストラや早期退職者の再就職先と見すえ、里山を借りて活動を始めたこと。②目標を「この山を宝の山にしたい。林床をサンダルで歩けるようにしたい。」として、山の林床、作業道の整備から始め、きのこ栽培(自然栽培)、山菜栽培等を行い、現在は、原木マイタケ等きのこ一二種類、山菜はタラの芽、ウルイ等一四種類程を栽培するまでに至ったこと。③販売は予約販売、道の駅、地方市場への出荷の他、東京のスーパー等へも販路を広げていることなどでした。また、このような活動は地域の方との交流につながり、地元小学校の体験見学会、中学生の職場体験学習、その他に見学者も多く訪れていることも発表されました。道県代表グループの発表というこ

とで、大変レベルの高いコンクールでしたが、最優秀賞を受賞し全国大会(来年二月)に出場することになったのは、青森県代表の「貝守やまゆり会」でした。会の活動内容は、林産、農産、山菜加工を行う婦人グループで、林業構造改善事業で整備した産地直売センター(平成六年落成)で販売を行っています。地域の活性化に貢献しているのは、地区の集落が全戸加入(五四戸)しての活動を行っていることで、売上げも順調に伸びているとのことです。

本県の里の森みらいは全国林業研究グループ連絡協議会会長賞を受賞しました。その後、北海道指導林家岡部誠二氏より「地域林業の再生に向けた林業グループと指導林家との連携した

活動」と題して講演が行われました。また、各道県林業グループ連絡協議会長により、今回の東日本大震災の復旧、復興に向けた力強い宣言が行われました。

その後に行われた交歓会では、各道県グループの互いの取り組み等に活発に意見交換が行われました。各グループの更なる意欲的活動に大きな期待が感じられました。翌日はまた台風一二号の影響が残る状況でしたが現地研修が行われました。むかわ町の北海道指導林家小林秀夫氏の所有林で、カラマツとイチイの複層林施業等について氏から説明を受け、本県とはまた違った北海道の森林施業について視察いたしました。



活動発表をする薄井氏



表彰の様



現地視察

東北・北海道ブロック 平成二三年度林業グループコンクール （第五一回林業グループ交歓会）に参加して

須賀川市
里の森みらいリーダー

薄井 充良



九月五日（月）～九月六日（火）
まで登別「石水亭」に於いて開催され
ました標記コンクールに参加発表
をさせていただきます。

私達は、五名の会員が参加するこ
ととなり、前日福島空港から出発し
ましたが、台風の通過との関係で飛
行機が飛べるか当日までヒヤヒヤで
した。何とか離陸し新千歳空港に着
陸しましたが、かなりの揺れを感じ
ました。バスで登別までは約一時間
半の道程でしたが、窓から見る景色
では、耕作地の区画の広さがとても
印象的でした。

登別「石水亭」に到着いたしましたし
たが、台風が追いかけて来ていた
らしく雨であったため、温泉に浸か
りのんびりすることと致しました。温
泉は乳白色のとても柔かい泉質であ
り、緊張を解すことができました。

発表当日は、朝から緊張しており
ましたが、各県の発表者や北海道各
地からの参加される方々が続々と会
場に集合されてきて、更に緊張し、
気持ちを落ち着かせようと懸命でし
た。一四時いよいよ開会です。主催
者やご来賓のご挨拶があり、コン
クールに入りました。私達は、五番
目の発表でしたが、前に発表された
皆さんは、時間がオーバーしても
堂々と発表を続けておられ、その度
胸に感嘆しました。

いよいよ審査結果発表となり、青
森県代表の「貝守やまゆり会」が北
海道水産林務部森林環境局長賞を受

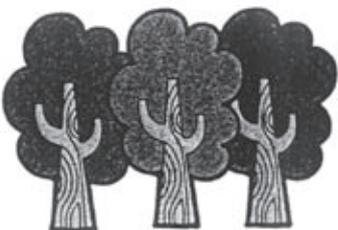
賞し、来年二月の全国コンクールに
出場することとなりました。ここは、
七一戸の集落で、葉タバコの栽培、
稲作、林業、りんごの栽培等が盛ん
であり、男性は、「林業研究会」若
い世代は「貝守林研ジュニア」、女
性は「貝守やまゆり会」小中学生は

「緑の少年団」三〇七名全員が林業
との関りを持つており、発表の「貝
守やまゆり会」は、林産、農産、山
菜加工を目的として、三世代五四名
が活躍されておられるとのこととし
た。一八年の努力が認められまし
た。私達も心から祝福し、全国での
活躍を期待したいと思えます。

私達は、過去五年間の取り組みと
今後の目標について発表させていた
だきました。他県での取り組み内容
と異質の提案型の内容となったと思
っておりますが、年月を重ねてこ
苦勞されてきたグループには頭が下

がりました。私達も今後年月を積み
重ねて夢の実現を目指して参りたい
と思っておりますので、関係機関の
皆様、諸先輩の皆様の一層のご指導
をお願いする次第であります。

最後となり恐縮ではありますが、派
遣していただきました社団法人福島
県林業協会様、ご同行賜りました
林研グループ蛭田会長、県中農林事
務所の松崎様に心から感謝申し上げ
まして、報告とさせていただきます。
ありがとうございます。



林協ニュース

会津・阿賀野川流域
シンポジウム
「森を活かした地域づくり」
が開催されました。

去る平成二十三年九月二〇日(火)、喜多方市の喜多方プラザ文化センター・小ホールにて、会津流域林業活性化センター主催、福島県・福島県森林組合連合会・福島民報社・福島民友新聞社・新潟日報社・喜多方シティエフエム・当協会後援による、「会津・阿賀野川流域 森を活かした地域づくりシンポジウム」が開催されました。森資源を活用し、森と共に活きる地域を目指し、若者の住む魅力ある地域づくりを考える、このような目的でこのシンポジウムは開催されました。当日は、四一〇名の参加者があり、高い関心の現れであると感じました。活動事例の報告が三団体からあり、講演も二つと、とても充実した内容でした。ひとりひとりが情熱をもって行動することが、今求められているのではないか、希望の光を胸に明るい未来へと一歩一歩進ん

で行くことが大切ではないか、皆、熱心に聴講しておりました。



410名の聴講者で盛況でした

◆森を活かした地域づくりに
取り組む活動事例報告◆

① 桐の里づくり・奥会津(三島町)

「桐の里づくりによる山村文化の継承」

齋藤 茂樹氏(福島県三島町前町長・前活性化センター理事長)

・豪雪の町を、伝統工芸が息づく町に育てようと、桐タンス工場の建設や生活芸館の整備、地場木材での木造住宅建設の提案、東日本大震災時の仮設住宅では約二〇〇戸が建設され、好評を得ている。また、目指すのは桃源郷をもじった「桐源郷」であると、林業の活性化は、奥会津の活性化との持論も展開されました。



齋藤茂樹氏(三島町)

② 森の地産地生・五頭山(阿賀野市・阿賀町)「森の手入れと森ハウスづくり」

香田 和夫氏(NPO法人ウツデイ阿賀の会副理事長)

・森林荒廃が進む森の手入れと森を活かした森ハウスづくりを、市民有志で取り組んでいる様子が紹介されました。学校林の育

成指導、植樹・育樹の活動と指導など、さまざまな行事・活動が活発になされています。「木を使った遊具づくり」で作られた木の大きな鎖は(写真A)、鎖ひとつで重く、温もりを感じます。会員にはチェーンソーの達人が二〇名おり、指導講習会も実施中とのことです。



(写真A) 木の鎖

③ 森の地産地焼・新津(新潟市)

「私たちが考える木質バイオマス利用」



香田和夫氏(阿賀野市・阿賀町)

団体のページ

岩城 和男氏 (株)アーク 専務取締役

● 『薪ボイラー』 ガシファイアーの説明がありました。ペレットやチップへの加工は不要で、生木をそのまま投入できる木質バイオマスボイラーで、コストを下げず、森の地産地焼の展開が可能です。さらに、森林のエネルギーを使う消費システム拡大の実現に向けては、中間加工を可能な限りカットできる『薪』のままでの利用がベストであり、そこで林業技術者と薪エネルギー消費者とのつながりが生まれると期待し取り組んでいる。とパワフルに発表され、講師の情熱が伝わりました。



岩城和男氏 (新潟市)

◆講演内容◆

◎講演Ⅰ 「森を活かした地域づくり」

内山 節氏 (立教大学大学院教授、NPO法人森づくりフォーラム代表理事)

● 森と人との関係について、森や山村の魅力では、フランスの山村の例を挙げて話されました。雑木林を活用する林業、自然と共に生きる、一人一人の価値観が感じられる生き方(人間的な生き方をしたい)という話に興味を持ちました。森と付き合い直そう。という言葉も印象的でした。都市と農村の関係性、相互に開かれた社会をいかに創るか。伝統を再評価する時代の始まり、日本の伝統・思想を見直そう。森の価値について、新しい付加価値をつける。木を使う。理屈はいらない。やってみる。という内容でした。

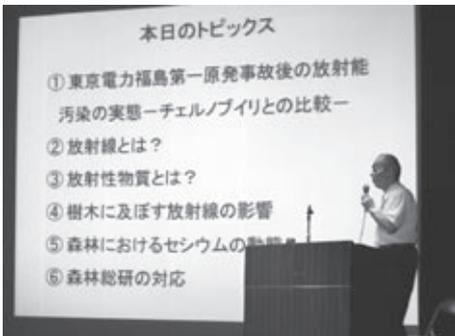


内山 節氏 (立教大学大学院教授)

◎講演Ⅱ 「森林に及ぼす放射線の影響」

篠原 健司氏 (独立行政法人森林総合研究所 研究コーディネータ)

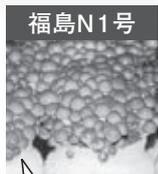
● 東京電力福島第一原子力発電所の事故により発生した放射線の影響、樹木は意外と放射線に強い(広葉樹は特に強い)、森林におけるセシウムの動態(葉っぱ↓地面↓根)等の話がありました。森林総合研究所の対応として、土壌と樹木中の放射線量の調査、森林生態系における放射性物質の吸収および蓄積の調査、平成二三年度 安全な「きのこ原木」の安定供給対策事業、菌床栽培きのこへの放射性セシウムの移行低減化技術の開発の説明がありました。さらに、森林のセシウム動態継続調査の重要性と放射性物質除去に向けて、という今後の調査継続の重要性を強調されていました。



篠原健司氏 (森林総合研究所研究コーディネータ)

きのこで地域を元気に (財)福島県きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)



安定多収量



大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)



コナラ原木で安定・多収量
食物繊維、ペクチン様物質豊富



○その他各種種菌

- 菌床
 - ・シイタケ
 - ・ハタケシメジ
 - ・ムラサキシメジ等

○マイタケホダ木 ○栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
E-mail:f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL:http://www.f-kinoko.org

シリーズ

巨樹はパワースポット

福島県樹木医会 事務局長

鈴木俊行



地球上には、人間に生物本来の生きる力を与え強めてくれる「不思議な力」をもった、パワースポットと呼ばれている場所がある。「不思議な力」とは、人間が本来潜在的に持っている力をパワーアップしてくれる力ではないだろうか。

私は、植物を診る樹木医で、人間を診る医師ではないが、常々、人間は植物に生かされており、植物なしには生きていけないと考え、植物は、人間らしく生きていく手本だと信じている。そして、植物の中の樹木は、地球上で最も長寿で、体の大きな生物であることから、ストレスや病気などに対する自己免疫力と防御機構が非常に高いと考えている。そんな樹木、とりわけ巨樹こそ私たち人間を「不思議な力」でパワーアップしてくれ、自己免疫力をアップさせてくれる、最大のパワースポットであると信じてやまない。な

ぜなら、私は巨樹には精霊が宿り、巨樹は神の依り代で、まさに神であると信じているからだ。神が宿る巨樹と、巨樹が生育し巨樹に抱かれた範囲が、本来私たちが安心して暮らせる場所だと信じている。巨樹と、巨樹の生育する場所は、身近なパワースポットなのである。

太古の時代から、植物も人間も太陽に支配されて生きてきた。だから、共通する生活空間と時間感覚をもつのは何の不思議もない。生物は一日という時間のなかで、いわば生体時計というものをもって生活し、植物も人間も太陽の動きに合わせた光周性というものをもってしている。太陽ばかりでなく、月の満ち欠けの周期に規定されながら生活していく生物もある。

「草木も眠る丑三つ時」という言葉があるが、これは植物と人間の同じ時間感覚を言った言葉だと思っ

ている。丑三つ時(現在の午前二時頃)は、草木が生物本来のメカニズムで自己免疫力と防御機構を高めるために重要な眠りの時なのである。ある学者は、人間が自己免疫力を高めるためには、午後一〇時から午前二時頃までの睡眠が最も大切だと言っている。まさに「草木も眠る丑三つ時」は、人間が生物本来のメカニズムで、健康に生きるため重要な時間で、植物と同じく太陽を中心とした生活リズムが必要なのである。だから遅くとも午後一時には眠りに付き、午前二時頃は快眠となり、昇る太陽とともに起きる。これが、自己免疫力を最大に高める、人間の生物本来の生活パターンではないだろうか。

私たちは、自ら創り出した社会規制の中で、夜を徹して照らし続ける光を手に入れ、生活活動時間を二四時間フルタイムに広げて来た。そして、本来もっていたこれまでの生活活動時間が次第に形骸化し、かつてあった自然の時間の循環性を外れ、デジタル的な人間の時間に埋没してしまった。私たちは、繁栄と引き換えに、生物本来のメカニズムを捨て去ろうとしているのかもしれない。私たちは、人間を生物の次元で考えなければならぬ時になってきたのではないだろうか。巨樹に抱かれ、



日本でも有数の美しさを誇る
杉沢の大スキ
県内最大のパワースポット

巨樹とともに本来の生体時計で生きてこそ、現代の痛んだ私たちが自己免疫力を高め、人間らしく健康に生き長らえる唯一の道なのではないだろうか。

今こそ、巨樹の生きるパワースポットに出かけ、生きる強いパワーをいただき、巨樹と同じく太陽に合わせた生物本来の生活リズムで眠り、活動することが自己免疫力を高めることとなり、病に強い健康な、本当の人間らしい生活ができるかと信じる。



天を突くように2本並んで生育する
諏訪神社の翁スギ
強いパワーをもらえる

新しい造林補助制度の普及と 施業集約化への取り組み

■いわき農林事務所
林業普及指導員 齋藤直彦

平成21年12月に森林・林業再生プランが策定され、10年後の木材自給率を50%以上にする目標が掲げられました。これを受け、造林補助事業も平成23年度より制度改革がなされ、「森林管理・環境保全直接支払制度」として、施業集約化・搬出間伐の推進へ大きく転換されることとなりました。また、平成24年度から従来の森林施業計画に変わり、より森林施業集約化へ重点を移した「森林経営計画」が導入されることが決定しています。これらの制度改革を森林所有者に理解してもらい、集約化を推進するため、いわき市森林組合と合同で、いわき市内の各地区において各種森林整備事業や森林計画制度に関する説明会を開催しました。

いわき地方では、造林補助事業の事業主体として、現在、47の造林組合が組織されています。この造林組合を中心に地区の施業実施、及び森林施業計画の取りまとめや拡充がなされてきた経緯があるため、これを生かし、森林経営計画参加への地区森林所有者に対する呼びかけや同意収集を造林組合の代表者をお願いすることとし、森林組合は、搬出間伐の収支計算や搬出計画策定等においてサポートしながら、森林経営計画作成を森林組合と造林組合の共同で行っていく方針として説明を行いました。

説明会は、平成23年6月27日から7月7日までの9日間、いわき市各地区で開催し、延べ150人の森林所有者等の出席がありました。説明は、造林補助（森林整備）事業・森林環境基金森林整備事業等の概要、及び森林経営計画の概要等を林業普及指導員が行い、森林経営計画作成手順の提案等については森林組合が行いました。結果として、新たな造林補助制度に対する一定の理解が得られ、24年度以降の森林経営計画策定への道筋を立てることが出来ました。

一方、森林所有者からは、「搬出間伐推進と言っても、現実的には条件が悪く、材を出せない箇所は多いのでは。」「小規模林家や不在村者が多いと集約化が困難となる。そのような地区では補助を受けられないのでは。」といった制度目的の実現を危ぶむ声も多く聞かれ、さらなる施業コストの合理化、農林事務所・森林組合等による集約化への指導等の必要性を感じました。

また、「造林組合単位で採択要件に見合う面積の間伐・更新伐を計画できる場所はほとんどないはず。」との意見も多く、造林補助事業を活用した森林整備の推進を図るためには、面的な広がり（面積）を確保することが重要であることから、今後も森林経営計画の樹立に理解を得るための取り組みを展開していきたいと思っております。



田人地区説明会



三和地区説明会

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(7月15日現在)

(単位: ㎡当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	8 (8~8)	△2	(0~0)	0	9 (9~9)	△1	8 (8~9)	△2
		10~13		並	スギ	10 (9~11)	△1	9 (7~11)	△1	10 (9~10)	0	10 (7~11)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	11 (10~13)	0	10 (9~11)	△1	10 (10~10)	0	10 (9~13)	△1
				並	ヒノキ	19 (15~24)	△3	(0~0)	0	16 (16~16)	△1	18 (15~24)	△2
		6.00	並	スギ	19 (16~23)	△1	(0~0)	0	15 (14~15)	0	17 (14~23)	△1	
			並	ヒノキ	24 (24~24)	0	(0~0)	0	20 (15~25)	0	21 (15~25)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	12 (10~13)	0	12 (11~12)	△1	11 (11~11)	△1	11 (10~13)	△1	
		4.00	並	アカマツ	10 (8~13)	0	(0~0)	0	9 (9~9)	0	9 (8~13)	△1	
		1.80	並	アカマツ	7 (5~10)	△1	(0~0)	0	8 (8~8)	0	7 (5~10)	△1	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	23 (23~23)	0	(0~0)	0	24 (24~24)	0	24 (23~24)	0
並				米マツ	25 (23~28)	0	26 (26~26)	0	25 (25~25)	0	26 (23~28)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	0	23 (23~23)	0	
			並	ベニマツ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	0	25 (23~27)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(9~10)	0	9 (8~9)	0
	13~14		並	カラマツ	9 (8~9)	0	8 (7~9)	0
	16以上		並	カラマツ	10 (10~11)	0	11 (10~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

六月の原木市場への入荷状況は、前月比一〇割増(前年比九割減)の二三、八一四立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比一一割増(前年比九割減)の二三、四〇六立方メートルとなっている。
 七月の価格については、大きく落ち込んだ前月よりさらに値を落とし、弱気配である。

福島の第一原発事故に伴い設定された警戒区域に最も近い道の駅で、しかも現在もその機能を果たしているものは「道の駅南相馬」であろう。国道六号線、原町区高見町交差点から南へ三〇〇メートル程、信号を右折したところにそれはある。二〇キロの境界まではあと三キロ程度だろうか。聞くところによれば、東日本大震災の被災エリアでは道の駅の多くがそうであったように、「道の駅南相馬」も震災発生後は被災者の避難所や支援物資の配給所、さらには災害派遣の警察や自衛隊の前線基地として重要な役割を果たしてきたという。この道の駅が、奇しくも小生が相双農林事務所へ赴任した日と同じ六月一日に物産販売とレストランの営業を再開し、今では通常に近い形で営業しているのである。落ち着いたたたずまいと相まって、最前線基地としての状況を実際に見ていない者にとっては、何事もなかったと錯覚してしまう。

そして、道の駅の入口の道路をはさんだ隣の敷地には一九八二年(昭和五七年)に解体された「原町無線塔」を記念して建てられた高さ約二〇メートルの「憶・原町無線塔」がある。



「道の駅南相馬」特産物販売コーナー

元々の原町無線塔は、高さ二〇〇メートルの電波塔として一九二一年(大正一〇年)に完成し、一九五八年(昭和三十三年)に東京タワーができるまではアジアで最も高い建築物であったという。この無線塔、実は一九二三年(大正一二年)九月一日の関東大震災の発生を逸早く打電し、その惨状を世界中に知らせたものであった。一〇分の一スケールの記念塔を前にしていると何やら因縁めいたものを感じずにはいられない。

さて、話は「道の駅南相馬」に戻るが、この一〇月には開設四周年を迎え、スタッフ、関係者の皆さんの努力により地域復興のシンボルの存在として様々なイベントや企画販売が予定されている。付近へ来られた際にはぜひお立ち寄りの上、復興への応援も兼ねて少しでも財布のひもを緩めていただきたいものである。



「道の駅南相馬」境界

相双農林事務所
 森林林業部 副部長

渡部 正明



JR 福島駅東口での街頭キャンペーン
(9月1日)

緑の募金のお願い 緑の募金のお願い 「避難された皆さまに 緑の潤いを」

みどりの少年団コーナー
No.182



チラシや花のタネを配布し、募金協力のお願い

緑の募金は長年にわたり、県民の皆さまからのご寄附をいただき、森林の整備や地方植樹祭の開催、緑の少年団の育成、さらには緑化木の配布など多くの事業に役立ててまいりました。

今年三月十一日に発生した東日本大震災により、春季緑の募金を自粛したため、計画していた事業を中止せざるを得ない事態となりました。しかしながら、緑化推進活動は継続して実施することが極めて重要であり、たとえ一年でも活動が停滞することは、今後の緑化推進活動に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

このため福島県緑化推進委員会としては、現在、仮設住宅等において

避難されている多くの方々に、「花と緑」による心の癒しをお届けすることなどを目的として、秋季緑の募金をお願いしております。

募金期間の初日にあたる九月一日にはJR福島駅東口において、県はじめ各団体のご協力をいただき、チラシや花のタネを配布するなどの街頭キャンペーンを実施し、募金の協力をお願いしました。

原子力発電所の事故は収束に向かっておりますが、県内の広い範囲で放射線の影響が残っており、経済活動への影響や復興対策など大きな課題が山積している中ではあります

が、今回の募金の趣旨をご理解の上、皆さまのご協力をお願いいたします。

平成23年度秋季緑の募金

緑の募金のお願い

今年の春季緑の募金は3月11日に発生した東日本大震災により活動を自粛してまいりましたが、地震・津波や原発の事故により現在も多くのの方が避難生活を余儀なくされています。この頃、「花と緑」によって被災の皆さまの心が癒され、緑意がなまじいふくしまが取り返されよう。避難されている皆さまに花壇セット(プランター、土、花の苗や種)をお贈りすることなどを目的として、秋季募金を実施することといたしました。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いたします。

避難された皆さまに

緑の潤いを

目標額 3,000万円
募金期間 9月1日～10月31日

ご寄附ありがとうございました。
平成22年度、県民の皆さまからお寄せいただいた募金額は7,572万円でした。この募金は、緑化事業や緑の少年団活動がランティス活動等に使用させていただきました。

募金の窓口・お問い合わせ
公益法人福島県緑化推進委員会
会址：地方緑化推進委員会

発行：社団法人 福島県緑化推進委員会
〒960-8043 福島市中町5-18
TEL 024-524-1480 FAX 024-524-4821
URL <http://www.fukushima-green.jp>

チラシ

目標額 三、〇〇〇万円
募金期間 九月一日～一〇月三十一日

募金のお申し込み・お問い合わせ先
(社)福島県緑化推進委員会
〒九六〇―一八〇四三
福島市中町五―一八
TEL 〇二四―五二四―一四八〇
FAX 〇二四―五二四―一四八二
または各市・地方緑化推進委員会

木連だより

放射性物質により
樹皮の流通がストップ

放射性物質の影響により樹木の表面にある樹皮が汚染されたことにより削皮の工程から始まる製材工場等の木材業界は今その存続の危機にある。

従来樹皮は家畜の敷料、バーク堆肥、そして燃料用にと、そのほとんどが販売処理されてきた。しかし、七月に発生した高濃度のセシウムを含む稲わらを肉用牛に給餌されていた問題により、樹皮についても出荷制限を受け、それ以来、月四〜五千トが工場等の土場にたまり続けている。(別図)

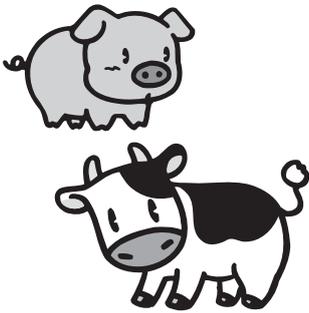
〈対策〉

家畜の敷料やバーク堆肥の原材料とするには食品の基準値が適用され厳しく、燃焼するしか方法はない。

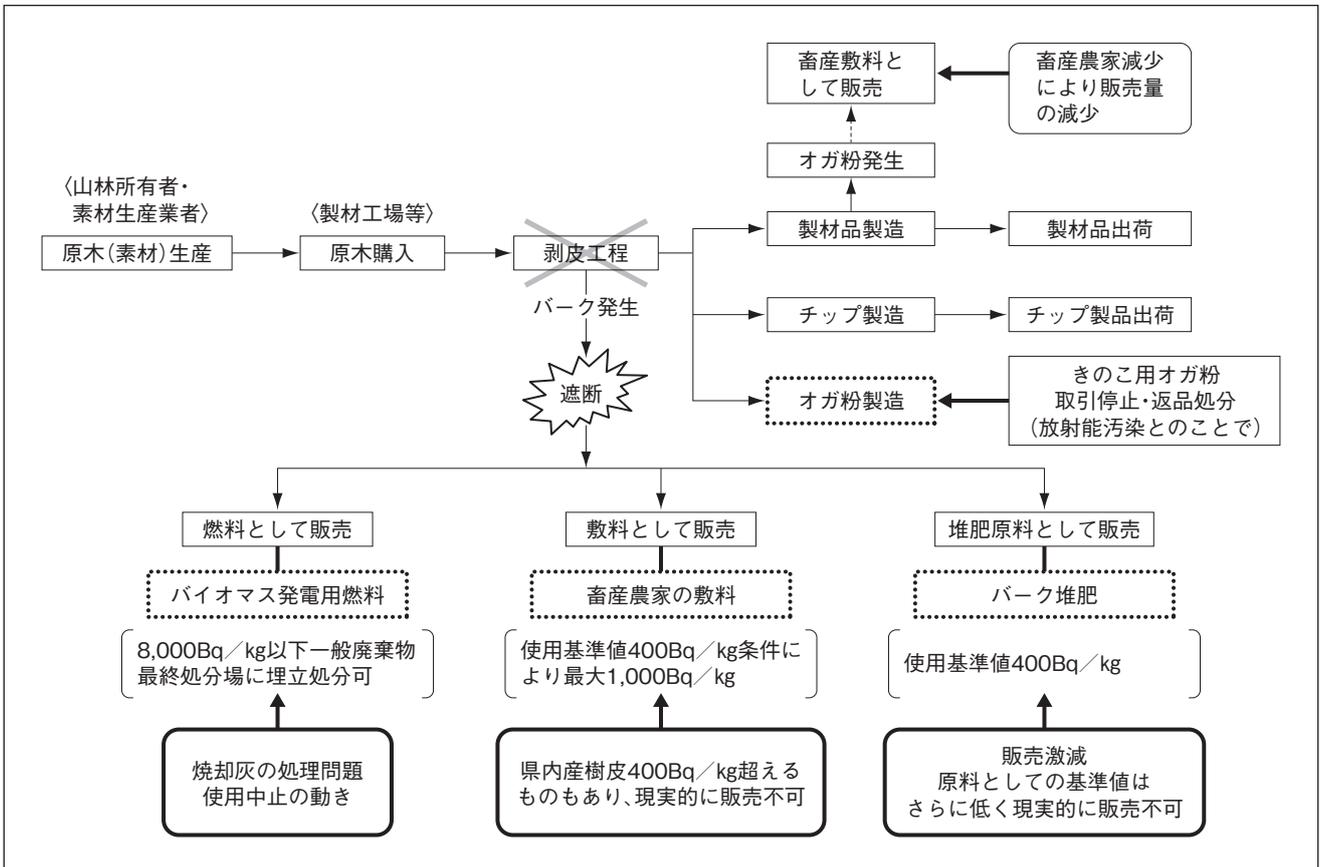


- ① 既存の焼却施設バイオマス発電施設等における燃焼
- ② 新規焼却施設等の早期建設
(濃縮されて排出される焼却灰の処分が問題)
- ③ 中間貯蔵施設や最終処分場の確保

東京電力さん、
樹皮を燃やして!!
灰を処分して!!



(別図) 樹皮等の発生と利活用



団体のページ

森林管理署メト

東日本大震災からの
復旧・復興

東日本大震災により犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

いわき市四倉にある磐城森林管理署は、平成二十三年三月一日に発生した東日本大震災で、震度六弱の地震とそれに伴う津波により、署庁舎内への海水・泥の侵入、執務室におけるロッカー・パソコン・書類等の破損・散乱、車両の損傷、電気・水・電話・ガスの使用不能等を被り、執務不能の状態となりました。

地震発生直後、職員多くは海そばの署庁舎から離れた高台に避難して、ひとまず難を逃れるとともに、現場などの職員も各自の判断で各地の避難所に避難するなど、職員・家族が全員無事であったことは何よりでした。

その後、磐城森林管理署職員は、関東森林管理局が棚倉森林管理署に設置した「現地対策本部」に移動し、関東森林管理局からの出張応援など



も得ながら、「現地対策本部」を拠点として周辺の市や町に食料・水・生活物資等の支援を行うとともに、磐城署庁舎や周辺、磐城署管内の国有林等について被害状況の確認を行いました。

併せて磐城署庁舎の復旧準備として、三月末から庁舎の泥除去、被災車や散乱したガレキの撤去、電気・水道等の点検を進め、庁舎復旧の目途がたつた四月八日に「現地対策本部」から磐城署に移り、四月一日から業務再開に向けて取り組み始めました。

その矢先、四月一日、二日に立て続けに震度六弱の余震が起これり、いわき市田人町などで土砂崩壊、断層、地割れ等が発生しました。

磐城森林管理署管内の国有林においては、三月一日の地震、津波により、相馬市松川浦の海岸林の流出等被害、いわき市新舞子浜の海岸林のガレキ・泥等漂着被害を受けたほか、四月一日、二日の余震に

よつても、いわき市勿来、田人等の国有林において土砂崩れ、地割れ等の被害が発生しました。

これら震災・津波等により発生した国有林の被害を受けて、磐城森林管理署においては以下のような対応を行ってきています。

被災した林道の復旧として、四月下旬に重機チャーターを契約し、いわき市の造林、生産予定箇所を中心に林道の点検、確認作業を実施するとともに、七月上旬にいわき市平地区、勿来地区、南相馬市原町地区で重機チャーター契約による林道修繕や、七月中下旬には緊急時避難準備区域内の作業現場へのアクセスに必要な林道修繕工事を実施しました。

海岸林の復旧として、五月中下旬にいわき市新舞子浜において、津波漂流物の撤去作業と林内整理を実施しました。

海岸林の復旧については、相馬市松川浦においても、被害木の撤去作業を実施することとしています。

また、地域雇用に配慮した森林整備等を推進することとして、いずれもいわき市の国有林において、五月末に地拵・植付約七〇畝、六月下旬に下刈約六〇〇畝、七月上旬に約一万立方メートルの間伐を発生しました。

森林整備について



いわき市新舞子浜のガレキ撤去作業



二本松市に建設中の仮設住宅

は、緊急時避難準備区域内の国有林においても、下刈等を実施することとしています。

更に仮設住宅建設用の資材として、磐城森林管理署管内の国有林材約二千立方メートルを供給し、一日も早い木造仮設住宅の建設に役立ててもらいました。

このような取組をはじめとして、磐城森林管理署では、引き続き関係機関や地元関係者などとも連携・協力しながら、震災により被災した森林の復旧をはじめとする国有林の整備や管理、国有林の利活用、木材の供給などに取り組み、防災林の整備、再生可能資源の利用、雇用の確保、地域の振興などを通じて震災からの復旧・復興に貢献していく考えです。

未曾有の災害で福島県の森林・林業は大きな被害を受けましたが、皆が力を合わせて取り組むことで、復旧・復興に向けて確実に前進していくものと信じています。



森林の除染も同時進行を

庭のヒガンバナが九月末に漸く咲いた。例年、彼岸の頃に見頃になるのに今年は何干遅い様である。ヒガンバナは秋の彼岸の頃に決まって咲くのでこの名があり、寺院の境内や墓地等に生えていることから地方により種々の呼び名がある。開花は昼夜の温度差によるので説があるので辞典等を調べたが結論が出ず、今夏の猛暑が一因かな?と考えている。

ところで、原発事故から半年以上を経て漸く東電による賠償手続きが始まったが、請求書が膨大で繁雑と評判が悪く、被災された方々の悩みや不信が一層高まりを見せている。

最近、県内で放射線除染の動きが出てきたが、本格的な活動は先が見えず、子供を持つ家庭では夫を残し県外等へ避難する状況が続いている。地域住民は子供達に友達ができた量や、避難先の環境に慣れたら地元に戻らないのではと心配して通学路や公園などの放射線量を調べ、環境改善に取り組んでいるが子供達に戻る気配は感じられない。

学区内の学校が校庭の表土を剥いたり、生徒の健康・環境改善等に取り組んでいるので私の町内会では通学路や公園等の側溝の汚泥撤去と公園や道路沿いの雑草を刈り払う計画をしているが、廃棄物処分場周辺住民の反対などで市の対応が決まらず悩んでいる。

話は変わるが写真撮影のため造林地を訪れたところ、急傾斜地で多くの作業員が暑さと蜂と闘いながら下刈り作業を行っていた。例年はご苦労さんと気軽に声を掛けていたが、今年は放射線の問題などもあって言葉を選びながら精一杯の笑顔で挨拶をしてきた。

農業や園芸の必需品の落ち葉が放射線汚染で採取出来ず、農業以外にも影響が出ている。また、露地栽培のしいたけの外、秋の味覚である野生キノコも採取できず、風評被害により施設栽培のキノコにも買い控えや価格低迷を引き起こしている。原発事故発生県として県土の約七割を占める森林の除染は緊急の問題であり、並大抵ではないが、除染の手法、計画等を纏め、効果的に除染する必要がある。震災、津波、水害に加え原発事故による被害は本県の産業や全県民にまでおよび影響も深刻である。

佐藤徹風

表紙の写真



つかの間の語らい

第7回ふくしま森林・林業写真コンクールで優秀賞を受賞した田中由佳里さん(福島市)の作品

編集

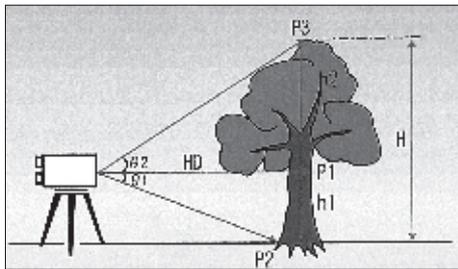
発行人

発行

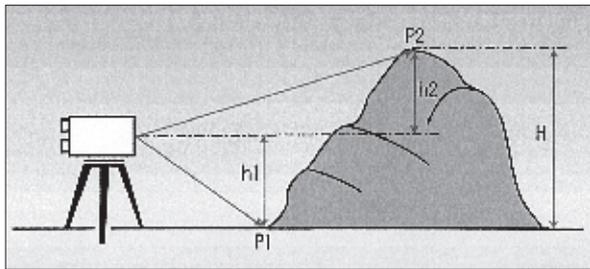
福島県内四森林管理署
 福島県林業協会
 福島県木材協同組合連合会
 福島県緑化推進委員会
 福島県農林種苗農業協同組合
 福島県林業公社
 森林総合研究所福島水源林整備事務所
 福島県林業協会(福島市中町五番一八号県林業会館内)
 陽光社印刷株式会社
 渡辺卓治
 (定価 六三円)

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

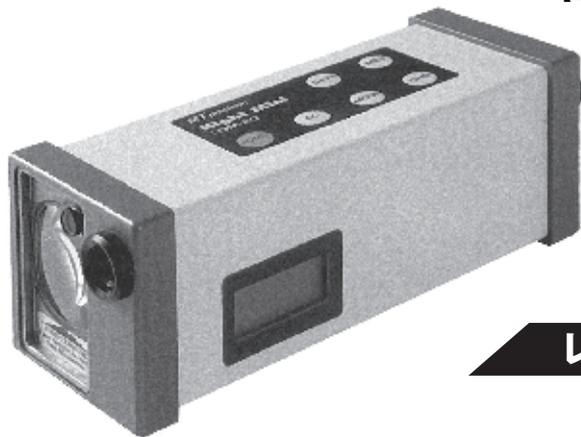


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



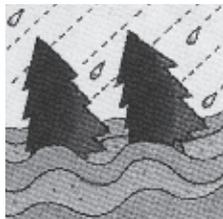
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



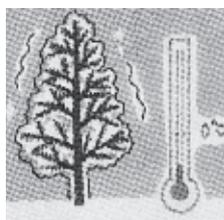
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングャーダシリーズ
- ・ラジキャリーシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

<p>野生動物から大切な植栽木を守る</p> <p>ツリーセーブ ヤシマレント</p>	<p>傷み防止</p> <p>ハチノックL (網漕治) ハチノックS (携帯用)</p>	<p>大切な日本の松を守る ヤマの林業薬剤</p> <p>ヤシマスマイバイン乳剤 ヤシマスマイバインMC グリーンガードエイト パークサイドF ヤシマNCS モリエートSC マツグリーン液剤2</p>	<p>くん蒸用生分解性シート</p> <p>ちゆらシート (茶・白) NCSシート (透明) 与作シート (茶・白) (折りたたみ式 専用キャリアバック使用)</p>
--	---	---	--



住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号
TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071

東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室
TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**
世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ



G2000T 

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**
さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ



G4211EZ 

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを追求したハンドルと
思いのアクセルワークが可能なトリガーレバー。



BC2711DW1-EZ

・防振ハンドルブラケット
・トリガーレバータイプ
チップソー ¥79,380 (税込)
笹刈刃 ¥78,330 (税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1